



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

学術データ利活用促進に向けた 全学横断的取り組み

松原 茂樹

(名古屋大学情報戦略室)

第13回教育総合展EDIX東京

2022年5月11日



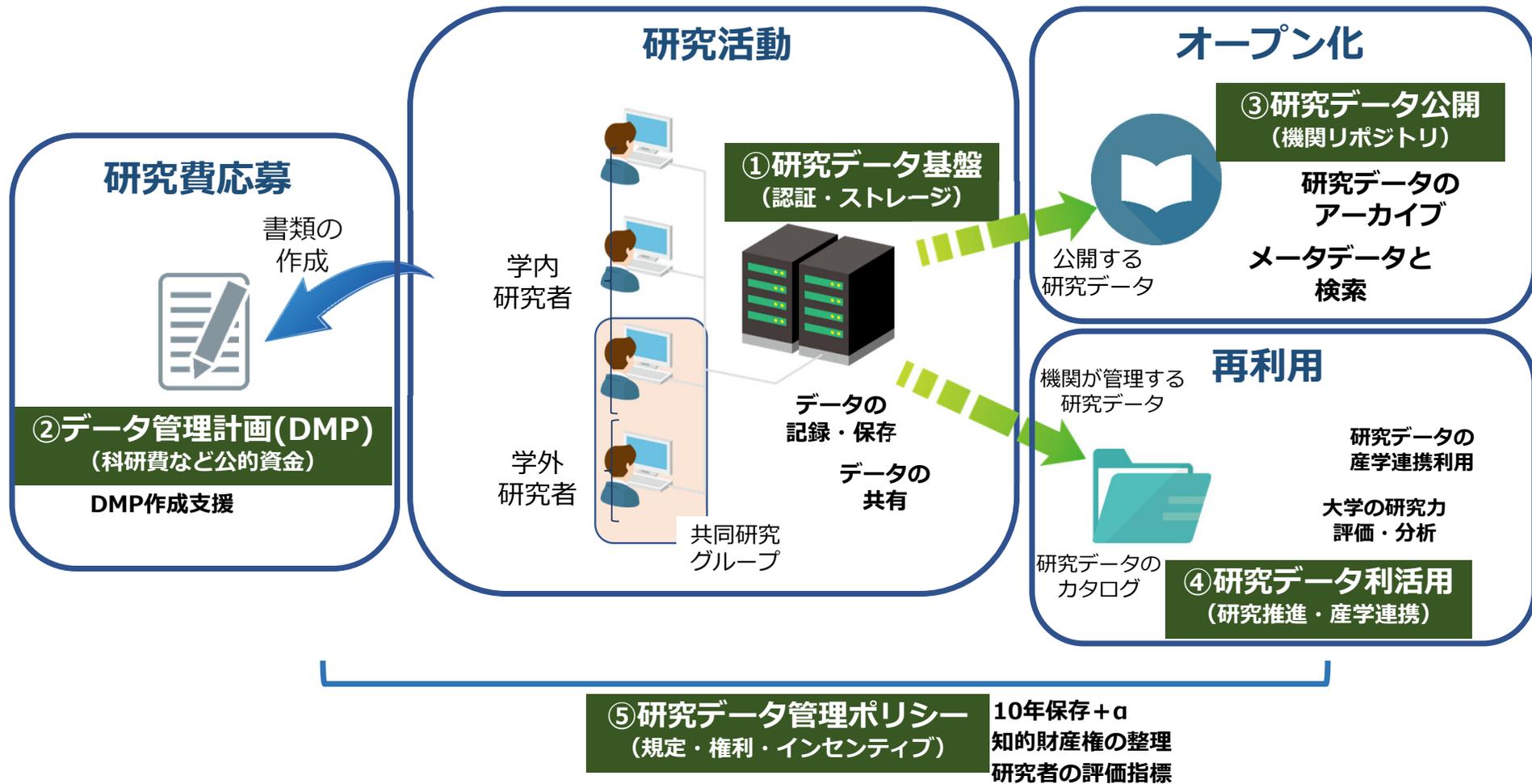
名古屋大学における研究データ基盤整備のこれまで

	AXIES 研究データマネジメント部会	名古屋大学	
		情報連携推進本部	全学
2018 以前	部会の設置 (2017.6)		研究データ保存の学内規定 (論文発表後10年保存)
2018		研究データマネジメント プロジェクト開始 (2018.5) 研究データ用ストレージの導入	
2019	「 学術機関における研究データ 管理に関する提言 」 「 大学における研究データ管理 に関するアンケート (雛形) 」	学内アンケートの実施 GakuNin RDM 試験運用開始	研究データ基盤整備部会の発足 (2019.12)
2020		研究データ用ストレージを 学内ストレージと統合	「 学術データポリシー 」の策定 (2020.10) 「 学術データ基盤整備WG 」の発足
2021	「 大学における研究データポリ シー策定のためのガイドライン 」	GakuNin RDM 正式利用開始	「 学術データ基盤整備基本計画 」 の策定 (2021-2023 3か年計画)
2022			計画の 遂行





データを活用する新しい名古屋大学を創る

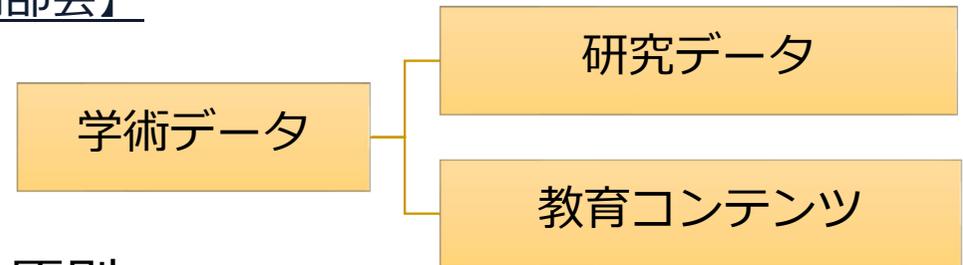


ポリシーの策定



2020.07) 原案の作成【研究データ基盤整備部会】

- 「**研究データポリシー**」から「**学術データポリシー**」に
- 名古屋大学における学術データの**管理・公開・利活用**の原則



解説) ポリシー策定の趣旨と構成
(2020.09 研究データ基盤整備部会)

2020.10) 最終案の承認

<http://www.icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/>

データポリシー

・名古屋大学 学術データポリシー

<http://www.icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/>

管理の 主体

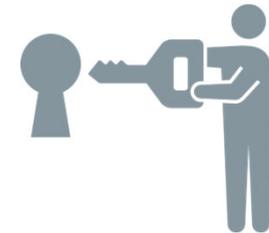
学術データの管理・公開・利活用の方法は、
収集・生成した者が主体的に決定できる

構成員 の責務

名古屋大学の構成員は、
収集・生成した学術データを適切に扱う

大学の 責務

名古屋大学は、構成員による学術データの
管理・公開・利活用の活動を支援する



ポリシーと解説（大学の責務）

・名古屋大学学術データポリシー



大学の責務

名古屋大学は、構成員による学術データの管理・公開・利活用の活動を支援する

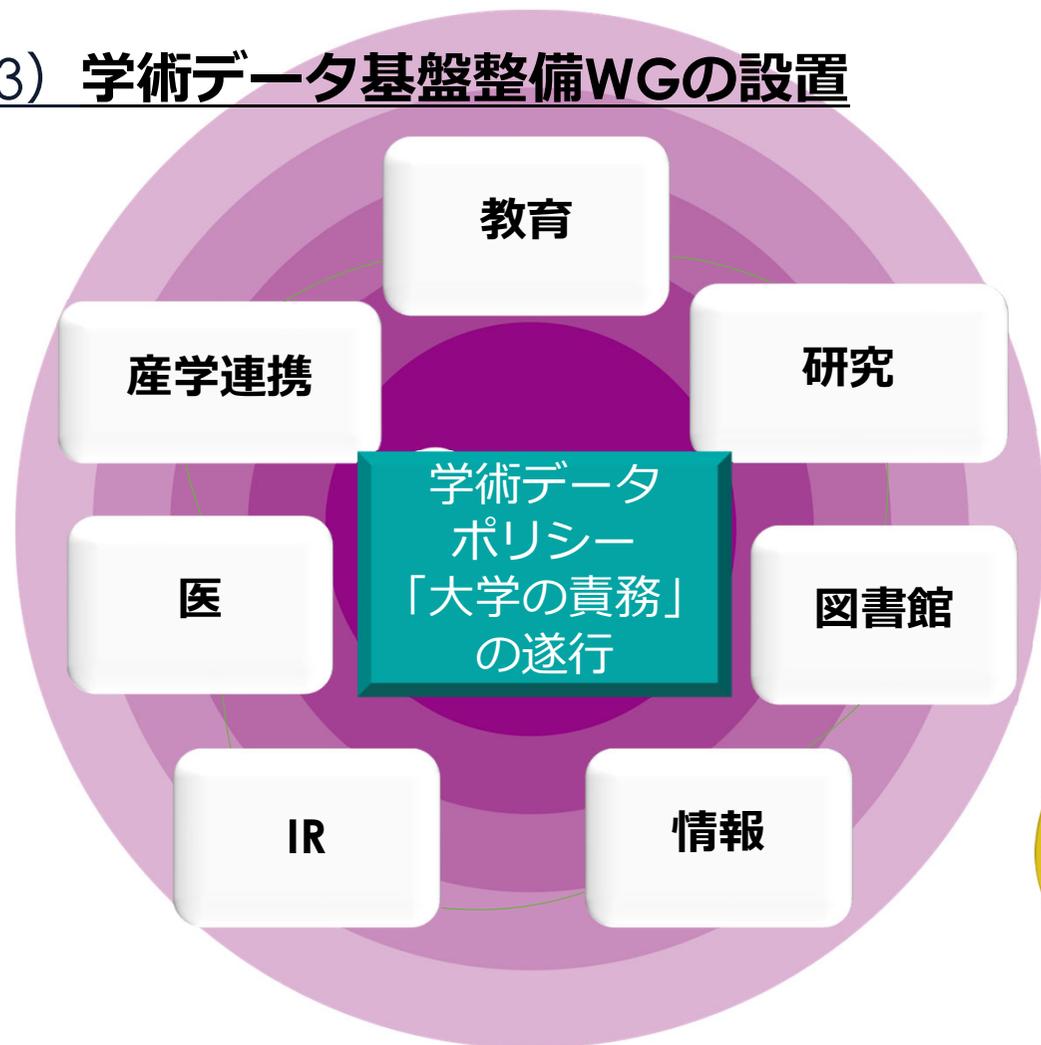


1. 学術データを管理するための**データプラットフォーム**を提供する。
2. **研究データ管理計画**等、学術データの管理に関する計画や行動を支援する。
3. 学術データを公開するための**データリポジトリ**を提供する。
4. 公開する学術データの**メタデータ作成**を支援する。
5. 学術データの**共同研究**や**産学連携**、**アウトリーチ**、**授業**等での利活用を支援する。
6. 学術データに関する**契約**、**法務**等を支援する。
7. 学術データ管理の**取組みを奨励**し、また**実績を評価**する。
8. 学術データの管理、公開、利活用に関わる**規程・実施要項**等を定める。
9. 学術データの管理、公開、利活用に関して**啓発**する。

解説で例示された **9** つの支援環境

ポリシー策定のあと

2021.03) 学術データ基盤整備WGの設置



プラットフォーム	データ管理計画	データリポジトリ
メタデータ作成	データ利活用促進	契約・法務
奨励・実績評価	規定・実施要項	啓発



学術データ基盤整備基本計画

構成と担当

- 基本計画の構成
 - まえがき + 各項目の施策

ビジョン

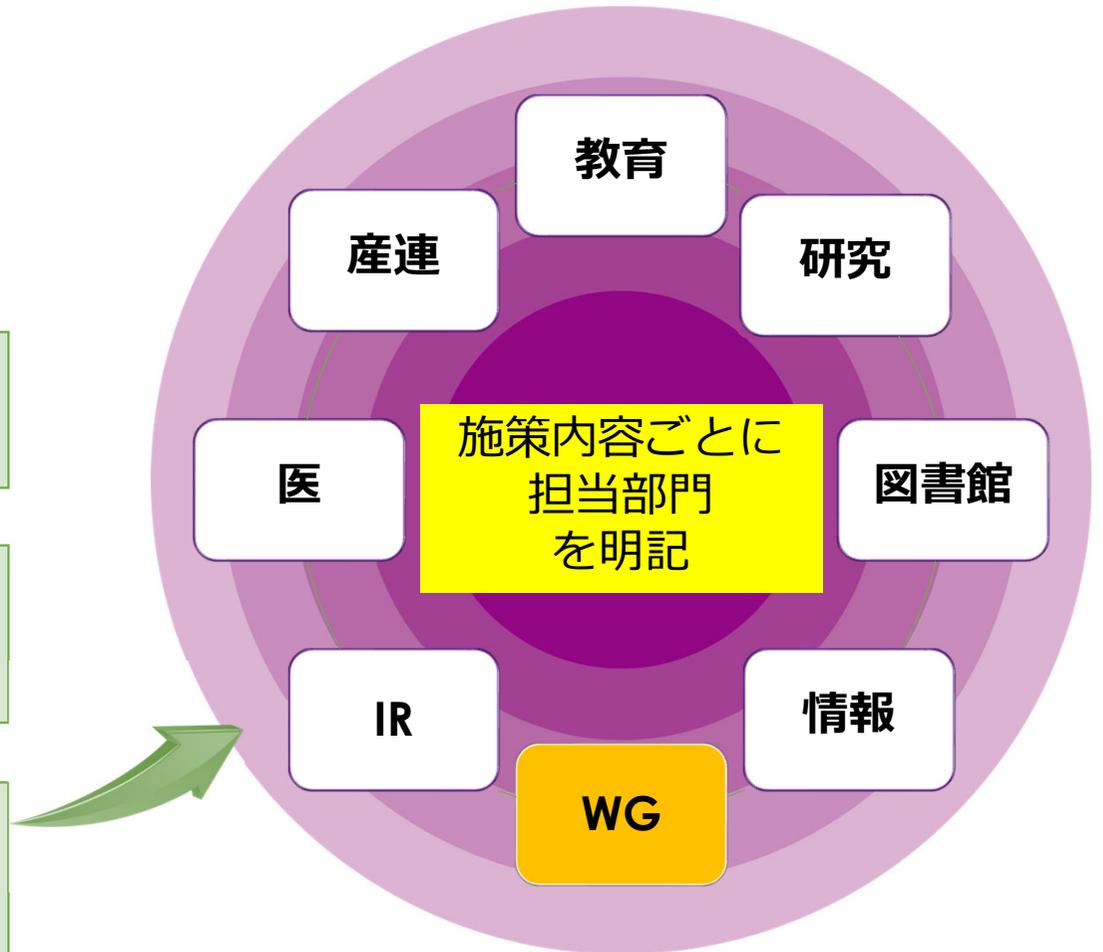
- 近い将来のあるべき姿

達成目標

- ビジョン実現のための達成事項

施策内容

- 2021～2023年度の施策計画



名古屋大学学術データ基盤整備基本計画（2021-2023）



ポリシー	施策項目	ビジョン	施策内容 2021-23
学術データの管理・公開・利活用の支援環境を提供	1. データプラットフォーム	学術データを大学が提供するデータプラットフォーム上で管理できる	4 施策 【情報/医/図書】
	2. データ管理計画	大学による支援のもと、研究助成機関の求めに沿ったデータ管理計画を作成できる	2 施策 【研究】
	3. データリポジトリ	学術データを、本学が提供するデータ公開基盤において公開できる	3 施策 【図書】
	4. メタデータ作成	公開する学術データに、国際的な相互運用性を備えたメタデータを付加できる	4 施策 【図書/情報】
	5. 利活用促進	学術データを、共同研究や産学連携、アウトリーチ、授業等で利活用できる	5 施策 【産連/図書/教育/情報】
	6. 契約、法務	学術データを、利用者との契約のもとで利活用に供することができる	1 施策 【WG】
	7. 奨励・実績評価	大学における学術データの管理、公開、利活用の取り組みを評価できる	3 施策 【IR/図書】
	8. 規程・実施要項	学術データの学内規程・実施要項が策定され、そのもとでデータ管理・公開・利活用を推進する	3 施策 【WG/教育/医】
	9. 啓発	大学構成員は、学術データを適切に管理し、可能な限りそれを公開し、利活用に供する	3 施策 【WG/図書】

オープンサイエンス推進

附属図書館オープンサイエンス・オープンアクセス支援

<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/oap/os/>

概要

- オープンサイエンスとは
- FAIR原則

公開支援 体制

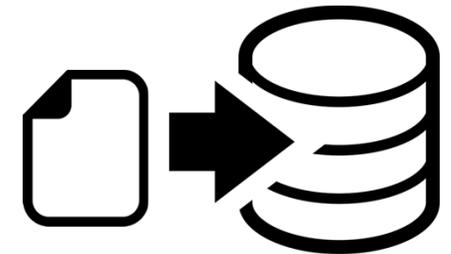
- 学術データポリシー
- 機関リポジトリでの研究データ公開

参考資料

- オンライン教材
(研究者向け/支援者向け/学生向け)

名古屋大学学術機関リポジトリ

NAGOYA Repository



研究データの登録手順を整備



大規模データアーカイブ

情報基盤センター
Information Technology Center
スーパーコンピュータ



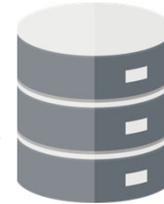
宇宙地球環境研究所
Institute for Space-Earth Environmental Research



コールドストレージ

Sony社製 Optical Disc Archive (ODA)

宇宙地球科学データ
+ メタデータ



書き込み



1Pbyte 超

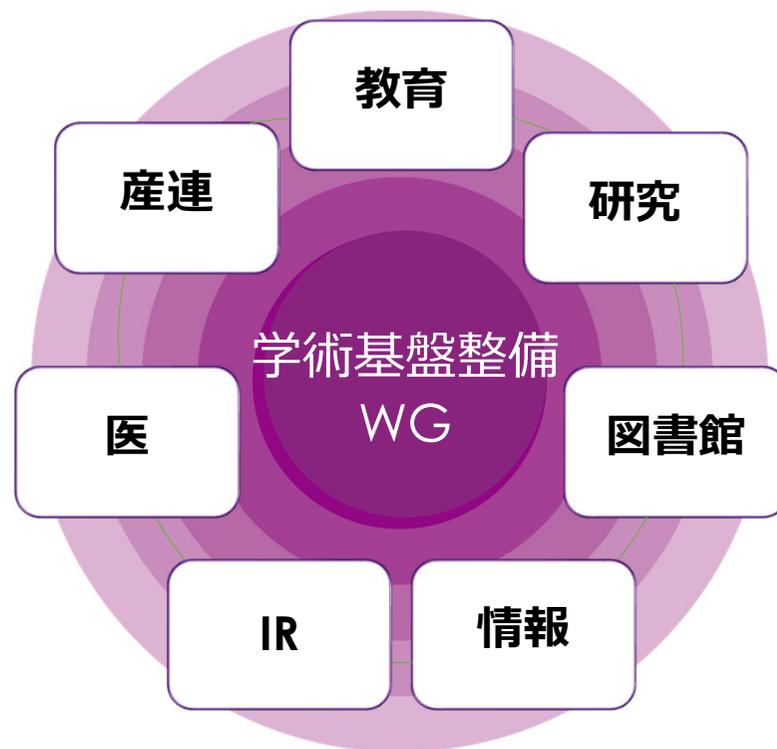


学内外からの
データアクセス



まとめ

- 名古屋大学における学術データの利活用促進に向けた取り組み
 - 全学横断的WGの設置
 - 学術データ基盤整備基本計画の策定



データポリシーを組織的推進の力に

課題

1. 学術データ人材の養成
2. 学内の推進組織の整備
3. ガイドラインの整備

